

デザイン思考アプローチによるワークスタイル変革ビジョン策定

“将来のありたい姿”を共創し、柔軟なワークスタイルを実現

背景と課題

近年、ワークスタイル変革は企業の取り組みにおける重要なキーワードの1つです。ワークスタイルのトレンド変化から、より質の高いコミュニケーションの実現とイノベーションの創出が求められています。

外部/内部環境

- ・グローバル協働
- ・ダイバーシティ
- ・ワークライフバランス
- ・新たなイノベーションの要請

⇒場所や時間の制約をなくしたい

テクノロジーの進化

- ・コンシューマライゼーション
- ・モバイル、BYOD
- ・統合コミュニケーション基盤
- ・ソーシャルメディア

⇒最先端のテクノロジーを活用したい

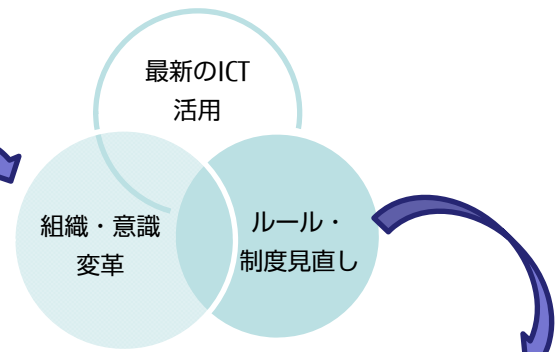
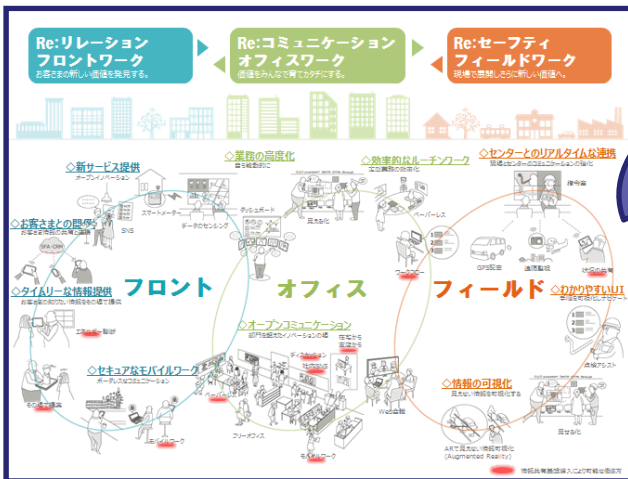
しかし、ワークスタイル変革を行うにあたっては、以下のような課題があります。

- 例) 推進担当がそれぞれ別の方向を見て議論している
- ・現状の課題解決では単なる「改善」にとどまってしまう

全社員が共感・共有できるとともに、将来を見据えた競争力強化のためのワークスタイル変革が必要

変革ビジョンとワークシーンを描く

- 「新しいものを生み出す」活動に適した未来志向アプローチであるデザイン思考をベースに、変革ビジョン策定を支援します。
- ビジョンに基づき、必要となる「最新のICT活用」「ルール・制度見直し」「組織・意識変革」を盛り込み、将来のワークシーンを明確にします。



デザイン思考とは？

- 共感・視覚化・評価と改良・実現のステップから成る方法論
- 経験、感性、異領域の出会い・協業を重視したイノベーション技法



[ワークシーン 例]

サービスの特徴と進め方

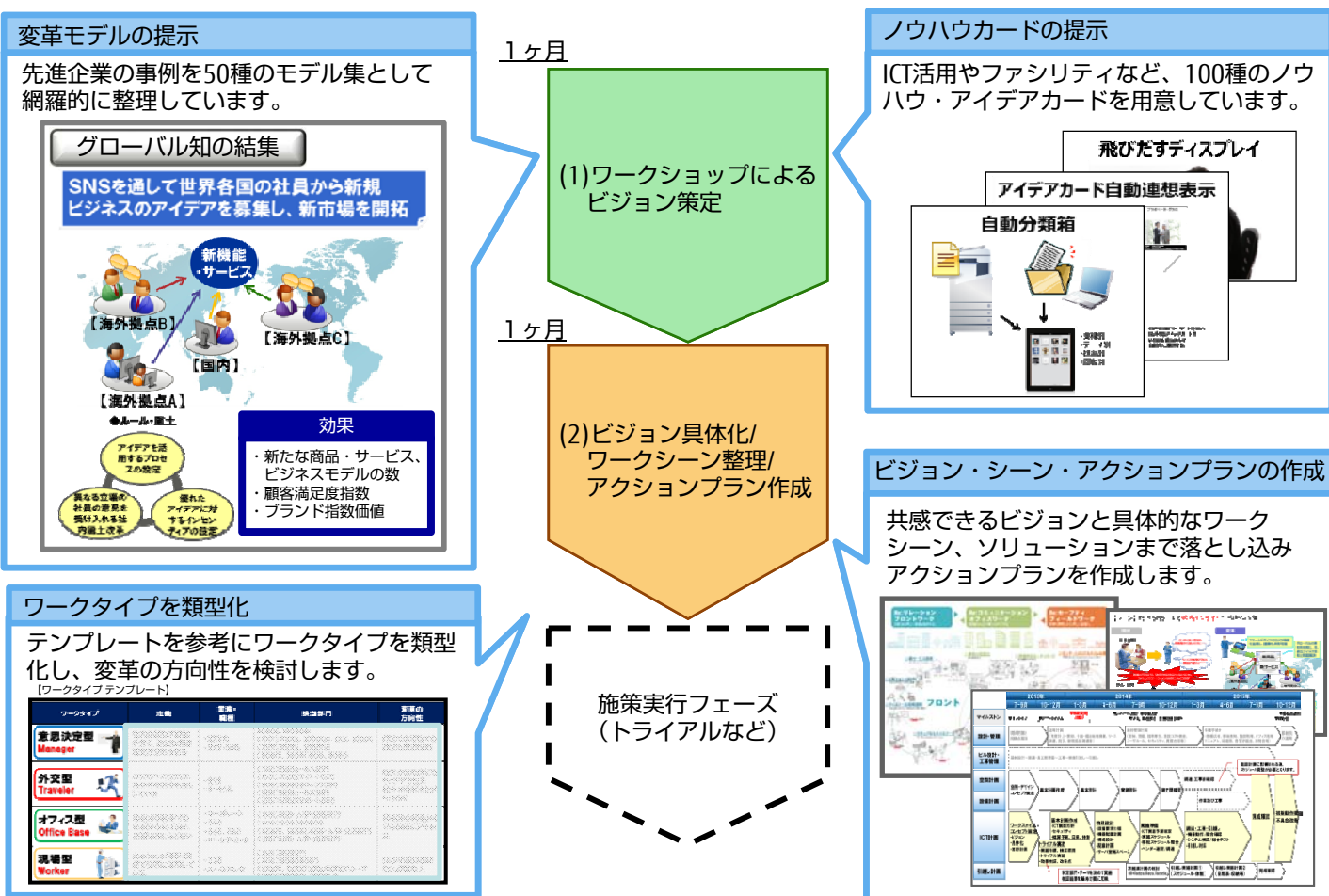
“将来のありたい姿” を描く際のデザイン思考活用効果

① 関係者が**主体的な立場**で参加することにより、参加者自身が**変革の当事者**となって**文化・習慣・マインド**を変える

② 様々な立場の参加者が**対話**をすることによって、異なる価値観や多様な意見から**新たな気づき**を得る

③ 共感・共有した**イメージ**を**視覚化**することによって、発想力をさらに高め、**柔軟なアイデア**を創出する

進め方



製造業A社様事例

■ グループ企業が一体となり、ビジョンの実現に向けた取り組みを加速

A社様では、数年後の本社オフィスの移転を計画しており、それと併せてワークスタイル変革の実現に取り組まれていました。富士通総研は富士通デザインと連携し、デザイン思考の活用により、短期間で共感・共有できるビジョンの策定と具体的な施策の立案を支援し、課題であった各推進担当者の検討の方向性統一を行い、未来志向により将来の働き方のイメージ化を実現しました。施策実行フェーズとして、ビジョンの実現に向けた各々の取り組みを利用部門や人事・総務部門等、全社を巻き込み推進しました。

このカタログに掲載されている内容については、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

2013年10月

お問い合わせ先

株式会社富士通総研

コンサルティング本部 ビジネスデザイングループ

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー

TEL:03-5401-8397